編集後記

その中にあってはいつも耐えられない程に感じる暑い夏もいつしか過ぎ、研究に勉学に落ち着いて取り組める秋がやってきました。今年の秋の訪れは即ちあと１年足らずで我らがSPring-8に光が点火されることを意味します。その準備は共同チームのマシンＧを中心に着々と進んでいるわけですが一方、観測系でも既に決まった10本のBLを担うSGでは暑い夏を省みることなく本務に加えてのBL建設の仕事に励んでおられたことと推察します。さて、会員諸兄もご承知のようにこの光彩11号の編集時期に11本から20本までの新しい共用BLの建設計画趣意書の公募があります。(９月30日締め切り)。偏向電磁石部の利用が中心だとか。関係各位にはこれは計画案の「審査」ではなくてそこに盛り込まれた新しい放射光利用分野の芽を見つける機会と捉えて欲しいものです。その決定は来る１月末だそうで、そうすると計20本の顔が勢揃いすることになります。先発のESRFに比べその陣容はどうでしょうか。気になるところです。また、この10月末には来年の点火をにらんでの「SPring-8シンポジュウム」が播磨科学公園都市で開催されます（次号の光彩はその記事を特集する予定）。そこでは複数SGの乗り入れBLということで当初の研究計画の見直しも話題になるかと思いますが各SGとも希望にあふれた当初の夢が持続されることを会員全員が願っていることでしょう。光彩がその夢を主張する一つの「場」であり得るように（私も忙しいですが）編集幹事・事務局一同頑張っています。

難波　孝夫

今夏、ESRFを見学する機会を得た。蓄積リング棟の外観はさほどでもなかったが、内部は、実験ハッチ、コントロールハッチ等が整然と配置され、機能的で美しく感じられ、１年後のSPring-8の姿を見る思いがした。また、蓄積リング棟に隣接する研究棟は、総ガラス張りのモダンな建物で、いかにも現代フランス建築という趣であった。Ｘ線磁気散乱のビームラインを担当者のC.Vettierに見せて戴いた。このビームラインはほぼ完成しており、この秋から本格的に稼働するようであった。驚いたのは、大きなゴニオメーターを見たときであった。考えられるあらゆる軸を備えており、いかなる磁気散乱の実験も行なえるように設計されているようであった。一方、SPring-8の磁気散乱ゴニオは、といえば、かなり限られた当初予算で、小振りのもので我慢せざるを得なかった。１年後に彼らに本当にたちうちできるのか、少々不安を感じさせるほど、ESRFは順調に立ち上がったようであった。SPring-8のビームライン建設を目前にして、気持ちの引き締まる思いがした次第であった。

伊藤　正久

「光彩」　No. 11

1996年9月発行

発　行　SPring-8利用者懇談会
〒678-12　兵庫県赤穂郡上郡町金出地1503-1
(財)高輝度光科学研究センター内
TEL　07915-8-0970　FAX　07915-8-0975

印　刷　アイテム　ジャパン
〒658　兵庫県神戸市東灘区深江本町3-1-6
TEL　078-413-5400　FAX　078-413-5335